

植 物 園 北 遺 跡

京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 二〇一三―四

植物園北遺跡

2013年

財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

財団法人
京都市埋蔵文化財研究所

植 物 園 北 遺 跡

2013年

財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

序 文

京都市内には、いにしへの都平安京をはじめとして、数多くの埋蔵文化財包蔵地（遺跡）が点在しています。平安京以前にさかのぼる遺跡及び平安京建都以来、今日に至るまで営々と生活が営まれ、各時代の生活跡が連綿と重なりあっています。このように地中に埋もれた埋蔵文化財（遺跡）は、過去の京都の姿をうかびあがらせてくれます。

財団法人京都市埋蔵文化財研究所は、遺跡の発掘調査をとおして京都の歴史の解明に取り組んでいます。その調査成果を市民の皆様幅広く公開し、活用していただけるよう努めていくことが責務と考えています。現地説明会の開催、写真展や遺跡めぐり、京都市考古資料館での展示公開、小中学校での出前授業、ホームページでの情報公開などを積極的に進めているところです。

このたび、建物新築工事に伴う植物園北遺跡の発掘調査について調査成果を報告いたします。本報告の内容につきましてお気づきのことがございましたら、ご教示賜りますようお願い申し上げます。

末尾になりましたが、当調査に際しまして多くのご協力とご支援を賜りました多くの関係各位に厚く感謝し、御礼を申し上げます。

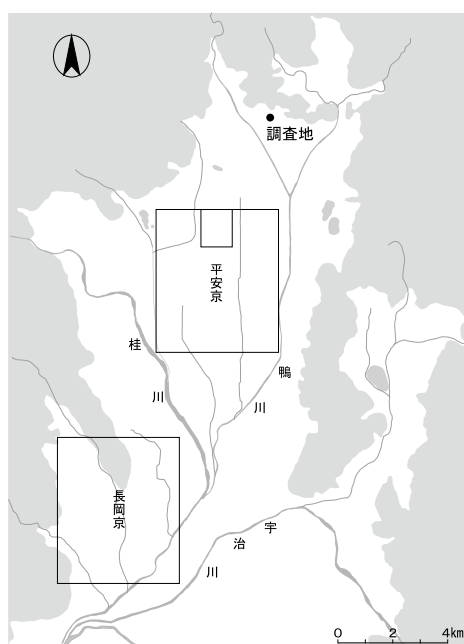
平成25年9月

財団法人 京都市埋蔵文化財研究所
所 長 井 上 満 郎

例 言

- 1 遺 跡 名 植物園北遺跡（文化財保護課番号 13 S 042）
- 2 調査所在地 京都市北区上賀茂向繩手町66
- 3 委 託 者 株式会社 山京 代表取締役社長 柳田和典
- 4 調査期間 2013年6月10日～2013年7月5日
- 5 調査面積 188.5㎡
- 6 調査担当者 柏田有香
- 7 使用地図 京都市発行の都市計画基本図（縮尺1：2,500）「西賀茂」「幡枝」「鷹峯」「植物園」を参考にし、作成した。
- 8 使用測地系 世界測地系 平面直角座標系Ⅵ（ただし、単位（m）を省略した）
- 9 使用標高 T.P.：東京湾平均海面高度
- 10 使用土色名 農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版 標準土色帖』に準じた。
- 11 遺構番号 通し番号を付し、遺構の種類を前に付けた。
- 12 遺物番号 通し番号を付し、写真番号も同一とした。
- 13 本書作成 柏田有香
- 14 備 考 上記以外に調査・整理ならびに本書作成には、資料業務職員および調査業務職員があたった。

(調査地点図)



目 次

1. 調査経過	1
2. 位置と環境	3
(1) 遺跡の位置と環境	3
(2) 周辺の調査	6
3. 遺 構	9
(1) 基本層序	9
(2) 遺構	9
4. 遺 物	13
(1) 土器類	13
(2) 瓦類	16
(3) 石器	16
5. ま と め	17

図 版 目 次

図版1	遺構	1 調査区全景（北西から）
		2 竪穴建物31（北東から）
図版2	遺構	1 竪穴建物39（北東から）
		2 竪穴建物39床面土器出土状況（北から）
		3 土坑83（北西から）
図版3	遺物	出土遺物

挿 図 目 次

図1	調査地位置図（1：5,000）	1
図2	調査前全景（南西から）	2
図3	作業風景（北東から）	2
図4	調査区配置図（1：500）	2
図5	植物園北遺跡と周辺の遺跡群（1：20,000）	3
図6	周辺既往調査位置図（1：10,000）	4
図7	調査区実測図（1：100）	10
図8	竪穴建物31実測図（1：50）	11
図9	竪穴建物39実測図（1：50）	12
図10	出土土器実測図（1：4）	15
図11	出土瓦拓影・実測図（1：4）	16
図12	出土石器実測図（1：6）	16
図13	遺構変遷図1（1：5,000）	18
図14	遺構変遷図2（1：5,000）	19

表 目 次

表1	周辺調査一覧表	5
表2	遺構概要表	9
表3	遺物概要表	14
表4	掲載土器観察表	15

植物園北遺跡

1. 調査経過

今回の調査は、京都市農業協同組合上賀茂支店新築工事に伴うものである。調査地は、周知の埋蔵文化財包蔵地である「植物園北遺跡」¹⁾に含まれる。植物園北遺跡は、京都盆地の北西部に位置し、縄文時代から室町時代の遺構・遺物が出土する集落遺跡である。東西約2.1km、南北約1.4kmの範囲に拡がり、総面積は140万㎡を超える。工事に先立ち、京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課（以下「文化財保護課」という。）が試掘調査を行ったところ、竪穴建物や掘立柱建物の柱穴の可能性がある遺構が検出されたため、財団法人京都市埋蔵文化財研究所が株式会社山京より委託を受け、発掘調査を実施することになった。調査地周辺では古墳時代前期・中期の竪穴建物や柱穴、平安時代の掘立柱建物などが見つかり、今回の調査でも当該期の遺構の発見が期待された。

調査区は、文化財保護課の指導に従いL字状に設定した。調査面積は188.5㎡である。重機で近世から現代の耕作土層を0.3～0.4mまで掘り下げたところで古墳時代から室町時代の遺構を検出し、人力掘削に切り替えて調査を行った。遺構は全て基盤層上面で検出した。調査区北西部で古墳

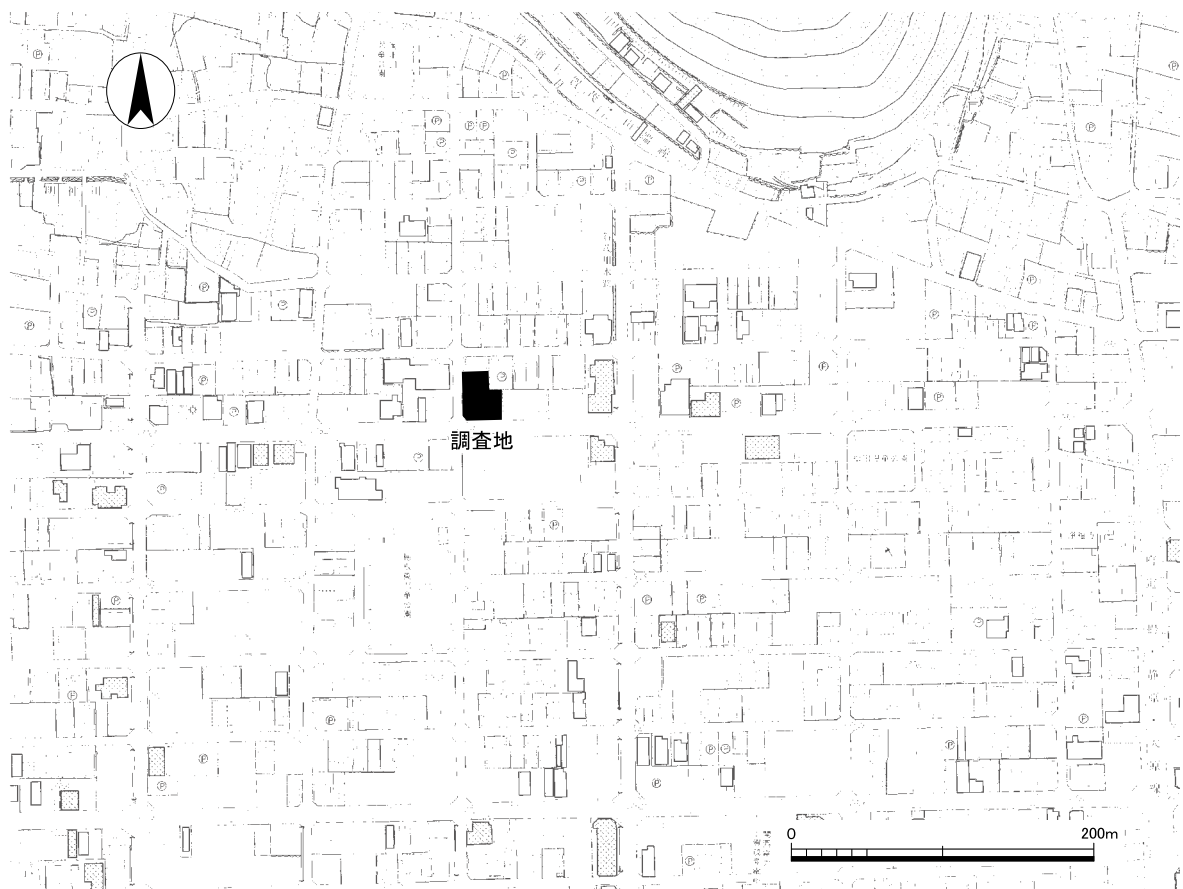


図1 調査地位置図（1：5,000）



図2 調査前全景（南西から）



図3 作業風景（北東から）

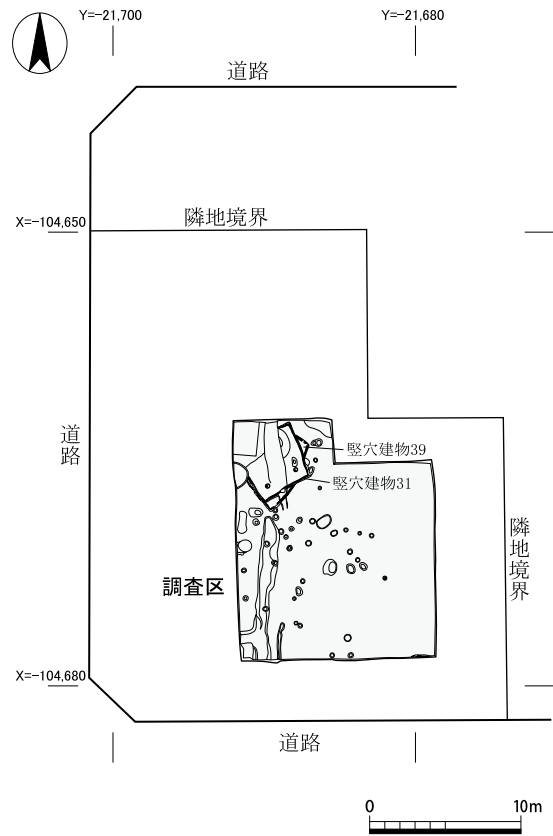


図4 調査区配置図（1：500）

時代中期の竪穴建物2棟が重複して見つかった。また、調査区全体で掘立柱建物の柱穴と考えられる小規模なピットを多数検出した。遺構の記録は、随時図面を作成し、適宜写真撮影により行った。調査中の排土は場内に仮置きし、埋戻しはせずに引き渡した。

註

- 1) 『京都市遺跡地図台帳 第8版』京都市文化市民局 2007年

2. 位置と環境

(1) 遺跡の位置と環境 (図5)

植物園北遺跡は、京都盆地北端の賀茂川と高野川の合流地点の北西方向に位置する賀茂川の扇状地上に広がる遺跡である。遺跡の北は北山丘陵の神宮山・本山・西山などに画され、また氷河期からの水生植物群落が遺存する深泥池にも接する。北西端は賀茂別雷神社（上賀茂神社）に接し、南西部は賀茂川左岸の自然堤防に沿って、京都府立植物園の東半を含み、南は北泉通付近まで、東端は京都市営地下鉄烏丸線松ヶ崎駅付近まで広がる。

周辺の遺跡の分布を見ると、旧石器時代から縄文時代の遺跡が北側の丘陵部に分布する。上賀茂本山遺跡では旧石器時代のサヌカイト製尖頭器が採集されている。上賀茂遺跡では縄文時代後期の土器や石鏃が出土した。また、ケシ山遺跡でもサヌカイト製ナイフ型石器が出土している。続く弥生時代から古墳時代中期までの遺跡は希薄であるが、古墳時代後期には遺跡北側の丘陵部に多数の古墳が築かれる。42基の円墳からなる本山古墳群を筆頭に、ケシ山古墳群、幡枝古墳群、西山古墳群などが展開し、深泥池東側の深泥池窯では陶棺が見つかった。群集墳が築かれた同じ丘

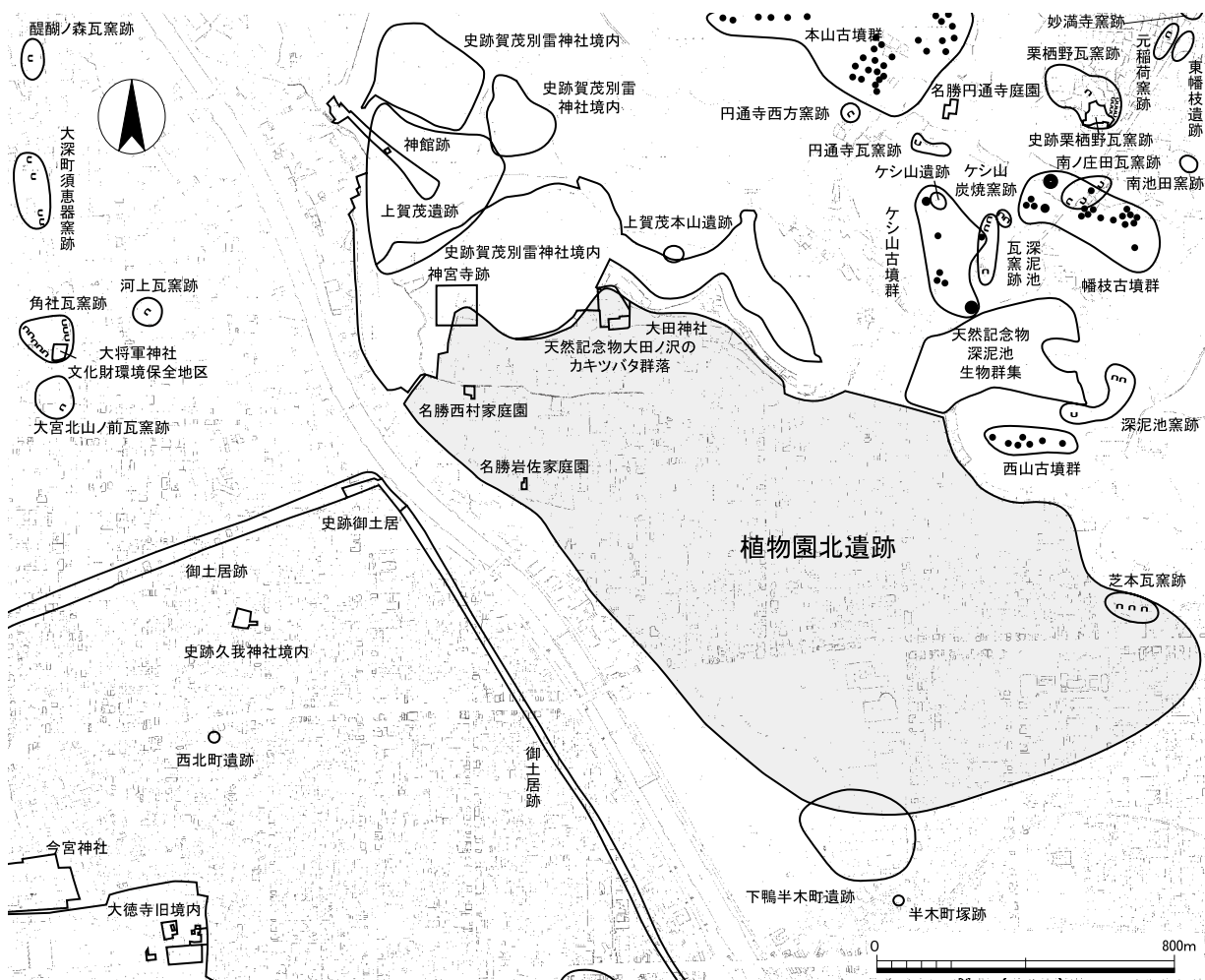


図5 植物園北遺跡と周辺の遺跡群 (1:20,000)

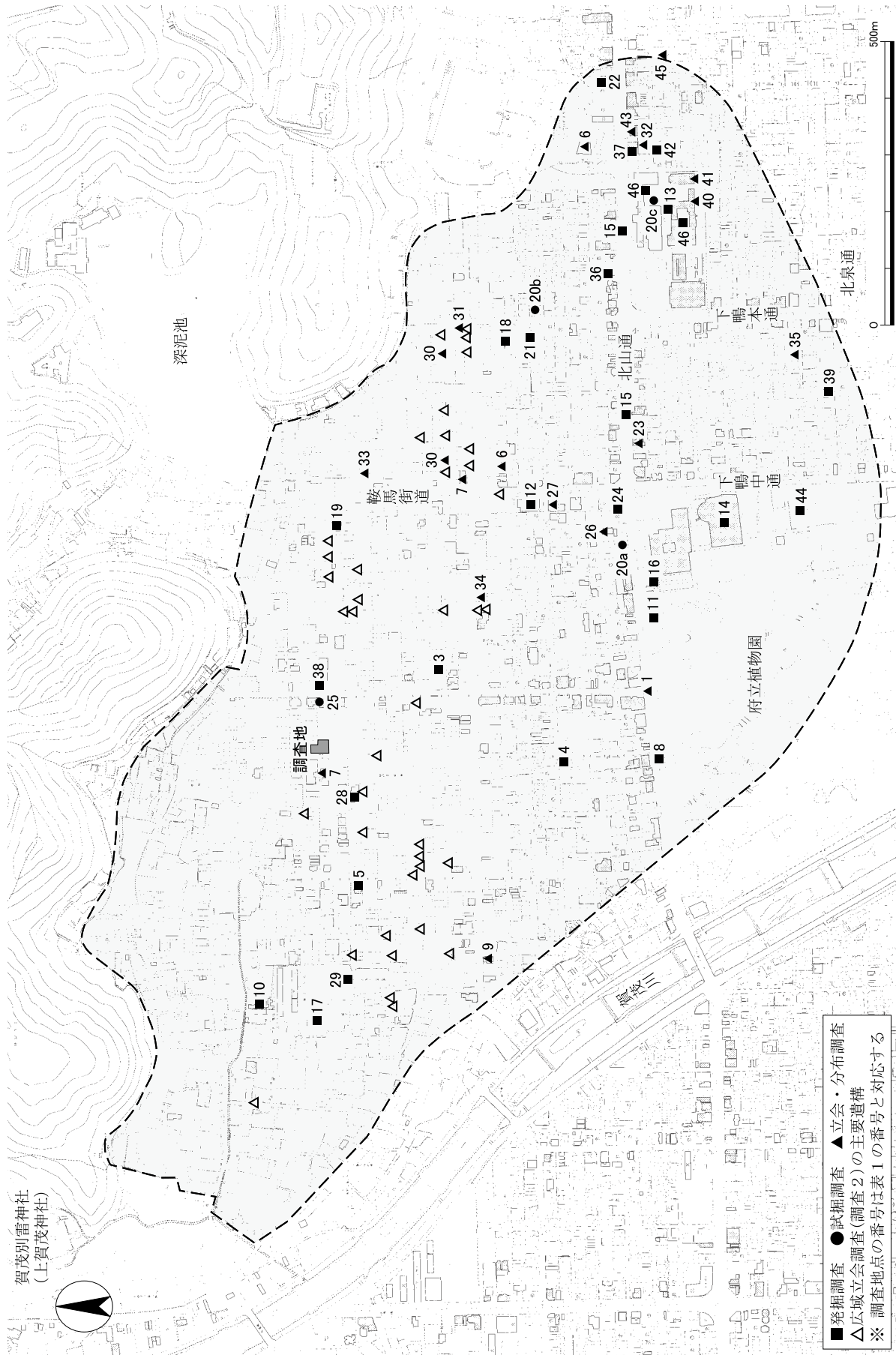


図6 周辺既往調査位置図 (1 : 10,000)

表1 周辺調査一覧表

No.	調査年	方法	所在地	縄文時代	弥生時代	古墳・飛鳥時代	奈良・平安時代	鎌倉時代以降	文献
1	1975	分布	府立植物園北側、北山通沿い						1
2	1978 ～1981	立会	上賀茂～下鴨		竪穴建物38棟、溝10条、土坑16基(後期～古墳前期)	竪穴建物3棟、溝1条、土坑4基(後期)	土坑、柱穴(平安中期)	土坑、溝(鎌倉)、土坑、溝(室町)	2
3	1982	発掘	上賀茂榊田町15					道路	3
4	1983	発掘	上賀茂桜井町15				土坑3基		4
5	1984	発掘	上賀茂蛸ヶ垣内町47		竪穴建物2棟(後期)	竪穴建物2棟、土坑(前期)、溝(後期)			5
6 7 9	1984 ～1986	立会	松ヶ崎、下鴨、上賀茂 一帯			竪穴建物10棟以上(前期)			6 7 9
8	1986	発掘	上賀茂桜井町～岩ヶ垣内町	甕棺墓(晩期)	柱穴(前期)	落込み(後期)、柱穴(飛鳥～平安中期)	溝、柱穴(平安後期)	暗渠、柱穴	8
10	1989	発掘	上賀茂竹ヶ鼻町4			竪穴建物2棟(前期)、竪穴建物8棟(後期)		井戸、溝、土坑、柱穴	10
11	1990	発掘	下鴨半木町他			溝	溝状遺構(平安中期)	溝、土坑、柱穴	11
12	1990	発掘	上賀茂松本町98			竪穴建物9棟、流路1条、土坑2基(前期)	掘立柱建物4棟(平安後期～鎌倉)	溝、土坑、柱穴	12
13	1990	発掘	下鴨野々上町1			竪穴建物8棟、土坑、柱穴(前期)、竪穴建物3棟(後期)、土坑、柱穴			13
14	1991 ～1992	発掘	下鴨半木町地内	土器棺墓		竪穴建物6棟(古墳末期～奈良)	掘立柱建物16棟、柵列、溝、埋納遺構14基	土坑、柱穴	14
15	1992 ～1993	発掘	上賀茂岩ヶ垣内町～松ヶ崎芝本町地内		竪穴建物4棟(後期)	溝(古墳以前)		柱穴	15
16	1992	発掘	下鴨半木町			溝(前期)、掘立柱建物、柵、土坑、柱穴			16
17	1993	発掘	上賀茂烏帽子ヶ垣内町1		流路(～古墳後期)	竪穴建物3棟(前期)	掘立柱建物(平安)	井戸、土坑、柱穴(中世)、土坑(近世)	17
18	1993	発掘	下鴨北芝町12		竪穴建物1棟、土坑(後期中頃～後半)、竪穴建物2棟(後期末～庄内式初期)、土坑6基(後期～古墳前期)	集石遺構(庄内式中頃)、竪穴建物1棟(庄内式末～布留式初期)、竪穴建物1棟(布留式中頃)	掘立柱建物3棟(平安後期)		18
19	1994	発掘	上賀茂松本町94		流路状遺構(弥生～古墳)		流路状遺構(平安)		19
20a	1994	試掘	上賀茂岩ヶ垣内町93-1・2、94			溝、柱穴群			20
20b	1994	試掘	下鴨南茶ノ木町29			竪穴建物1棟、溝、土坑			20
20c	1994	試掘	下鴨野々神町1-2			土坑、柱穴(飛鳥)			20
21	1995	発掘	下鴨北芝町		竪穴建物4棟、集石遺構2基(終末期～古墳初期)	竪穴建物2棟、土坑6基(前期)			21
22	1995	発掘	松ヶ崎井出ヶ海道町地内				掘立柱建物2棟(奈良～平安前期)		22
23	1995	立会	下鴨前萩町5-1	土坑(中期)	竪穴建物、掘立柱建物(末～古墳初期)				23
24	1997	発掘	上賀茂岩ヶ垣内町109-1				掘立柱建物1棟、柱穴		24
25	1997	試掘	上賀茂向繩手町61他2筆				掘立柱建物1棟		25
26	1997	立会	上賀茂岩ヶ垣内町90			竪穴状遺構、溝状遺構、落込み、柱穴(古墳以降)			26
27	1999	立会	上賀茂岩ヶ垣内町100			竪穴建物2棟(前期)	溝、土坑(平安)		27
28	2000	発掘	上賀茂土門町39		流路(後期～古墳前期)	竪穴建物(前期)、竪穴建物(中期)			28
29	2002	発掘	上賀茂烏帽子ヶ垣内町24			掘立柱建物2棟、自然流路		土坑7基、柱穴4基(室町)	29
30	2002	立会	下鴨水口町			竪穴建物4棟(前期)			30
31	2005	立会	下鴨水口町57-1			竪穴建物、落込み、柱穴			31
32	2006	立会	松ヶ崎芝本町6-1			竪穴建物6棟、柵1条、土坑、柱穴(前期)			32
33	2006	立会	上賀茂池端町41-1			竪穴建物1棟(前期)			33
34	2006	立会	上賀茂松本町53			竪穴建物1棟(前期)			34
35	2006	立会	下鴨神殿町23			竪穴建物1棟(後期)			35

No.	調査年	方法	所在地	縄文時代	弥生時代	古墳・飛鳥時代	奈良・平安時代	鎌倉時代以降	文献
36	2007	発掘	下鴨北野々神町20		堅穴建物9棟、土坑7基、柱穴群(後期～古墳前期)	溝(飛鳥)	包含層(平安)		36
37	2007	発掘	松ヶ崎芝本町4-1			堅穴建物3棟(前期)	堅穴建物1棟(奈良後半)		37
38	2007	発掘	上賀茂豊田町26、36				溝、土坑(奈良)、掘立柱建物3棟、礎敷、溝、土坑、柱列(平安)		38
39	2010～2011	発掘	下鴨北園町5・6			堅穴建物2棟(飛鳥)、掘立柱建物1棟(飛鳥)、土坑2基(飛鳥)			39
40	2010	立会	下鴨南野々神町1			堅穴建物2棟(前期)、堅穴建物1棟(後期)	堅穴建物1棟(奈良)		40
41	2011	立会	下鴨南野々神町1			堅穴建物1棟(前期)			41
42	2011	発掘	松ヶ崎芝本町13番、13番1			堅穴建物4棟(前期)			42
43	2012	立会	松ヶ崎芝本町4-4、4-5、4-6			堅穴建物2棟(前期)、土坑、溝(前期)			43
44	2011～2012	発掘	下鴨半木町			堅穴建物1棟(後期)	堅穴建物9棟、掘立柱建物27棟、柱列、土坑	自然流路、掘立柱建物	44
45	2012	試掘	松ヶ崎今海道町9他			堅穴建物1棟(前期)			45
46	2011～2013	発掘	下鴨南野々神町1			堅穴建物16棟(前期13、後期3)、掘立柱建物1棟(後期)、土坑	掘立柱建物2棟(奈良)、土坑(奈良)、ピット(平安)	土坑	46

陵部に奈良時代から平安時代には瓦窯が築かれる。北野廃寺に瓦を供給した元稻荷窯跡、奈良時代前期から操業し平安時代には官窯となる栗栖野瓦窯、その他にも南ノ庄田瓦窯、深泥池瓦窯などがあり、植物園北遺跡北東部にも全壊したが西寺や広隆寺で同範瓦が出土する芝本瓦窯が存在した。遺跡北西に接する賀茂別雷神社も創建が7世紀後半まで遡るとされる。また、遺跡の南に位置する下鴨半木町遺跡は、平安時代の集落跡と見られているが、近年、植物園北遺跡の南端で実施された調査(図6-44)で平安時代の建物群が見つかっており、植物園北遺跡と一連の遺跡である可能性が高い。

(2) 周辺の調査(図6、表1)

植物園北遺跡では2012年度までに、発掘調査が26件、試掘調査が61件、立会調査が309件実施されている。すべての発掘調査地点と主要な遺構が出土した試掘・立会調査地点について図6と表1にまとめた。

今回の調査地周辺では広域立会調査2、立会調査7、試掘調査25、発掘調査28・38などが実施されている。広域立会調査2では調査地の北西約100mと南約100mの地点で古墳時代前期の堅穴建物が見つかる。調査地の西隣接地で実施された立会調査7でも古墳時代前期の堅穴建物2棟が見つかる。調査地の南西約100mで実施された調査28では古墳時代前期と中期の堅穴建物がそれぞれ1棟見つかる。中期の堅穴建物からは須恵器把手付椀と滑石製勾玉が出土している。また、この調査では自然流路から旧石器時代のチャート製搔器や縄文時代晩期、弥生時代前期の土器が出土している。調査地の東約70mで実施された試掘調査25では平安時代の掘立柱建物1棟が見つかる。その東で実施された調査38では奈良時代の土坑・溝、平安時代前期の掘立柱建物2棟と平安時代中期の掘立柱建物1棟などが検出されている。この調査では熨斗瓦が多数出土し、緑釉陶器や白色土器がまとめて出土しており、祭祀などに関連した特殊な建物であった可能性があり、注目される。

文献一覧（表1の文献番号と一致）

- 1 『平安京関係遺跡発掘調査概報』－京都市高速鉄道烏丸線内遺跡発掘調査－ 京都市高速鉄道烏丸線内遺跡調査会 1975年
- 2 「植物園北遺跡」『昭和55年度 京都市埋蔵文化財調査概要』 財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2011年
- 3 家崎孝治・ト田健司『植物園北遺跡発掘調査概報 昭和57年度』 京都市文化観光局 1983年
- 4 久世康博「植物園北遺跡（2）」『昭和57年度 京都市埋蔵文化財調査概要』 財団法人京都市埋蔵文化財研究所 1983年
- 5 辻 裕司・木下保明『植物園北遺跡発掘調査概報 昭和59年度』 京都市文化観光局 1985年
- 6 調査一覧表『京都市内遺跡試掘立会調査概報 昭和59年度』 京都市文化観光局 1984年
- 7 調査一覧表『京都市内遺跡試掘立会調査概報 昭和60年度』 京都市文化観光局 1985年
- 8 小森俊寛・原山充志・長戸満男「植物園北遺跡」『昭和61年度 京都市埋蔵文化財調査概要』 財団法人京都市埋蔵文化財研究所 1986年
- 9 調査一覧表『京都市内遺跡試掘立会調査概報 昭和61年度』 京都市文化観光局 1986年
- 10 高 正 龍『植物園北遺跡発掘調査概報 平成元年度』 京都市文化観光局 1990年
- 11 長戸満男・小森俊寛「植物園北遺跡2」『平成元年度 京都市埋蔵文化財調査概要』 財団法人京都市埋蔵文化財研究所 1989年
- 12 高橋 潔「植物園北遺跡」『平成2年度 京都市埋蔵文化財調査概要』 財団法人京都市埋蔵文化財研究所 1990年
- 13 長谷川行孝『ノートルダム女子大学構内遺跡発掘調査報告－植物園北遺跡－』 ノートルダム女子大学 1991年
- 14 久世康博「植物園北遺跡」『平成3年度 京都市埋蔵文化財調査概要』 財団法人京都市埋蔵文化財研究所 1991年
- 15 高橋 潔・高 正 龍「植物園北遺跡」『平成4年度 京都市埋蔵文化財調査概要』 財団法人京都市埋蔵文化財研究所 1992年
- 16 竹原一彦「植物園北遺跡第11次発掘調査概要」『京都府遺跡調査概報』第54冊 財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター 1993年
- 17 久世康博・津々池惣一「植物園北遺跡1」『平成5年度 京都市埋蔵文化財調査概要』 財団法人京都市埋蔵文化財研究所 1993年
- 18 岸岡貴英・長友朋子・杉本厚典「植物園北遺跡第13次発掘調査概要」『京都府遺跡調査概報』第58冊 財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター 1994年
- 19 高橋 潔「植物園北遺跡（第14次調査）」『京都市内遺跡発掘調査概報 平成6年度』 京都市文化観光局 1994年
- 20 馬瀬智光「植物園北遺跡 No.63, No.64, No.65」『京都市内遺跡試掘調査概報 平成6年度』 京都市文化観光局 1994年
- 21 石尾政信・杉本厚典「植物園北遺跡第16次発掘調査概要」『京都府遺跡調査概報』第70冊 財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター 1996年
- 22 久世康博「植物園北遺跡」『平成7年度 京都市埋蔵文化財調査概要』 財団法人京都市埋蔵文化財研究所 1995年
- 23 高橋 潔「植物園北遺跡（96RH224）」『京都市内遺跡立会調査概報 平成8年度』 京都市文化市民局 1996年

- 24 百瀬正恒「植物園北遺跡」『平成9年度 京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所 1997年
- 25 調査一覧表『京都市内遺跡試掘調査概報 平成9年度』京都市文化市民局 1998年
- 26 近藤章子「植物園北遺跡(97RH202)」『京都市内遺跡立会調査概報 平成9年度』京都市文化市民局 1997年
- 27 吉本健吾・竜子正彦「植物園北遺跡(99RH18)」『京都市内遺跡立会調査概報 平成11年度』京都市文化市民局 1999年
- 28 近藤章子・菅田 薫「植物園北遺跡」『平成12年度 京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2000年
- 29 鈴木廣司・津々池惣一「植物園北遺跡」京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報 2002-14 財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2002年
- 30 堀内寛昭「植物園北遺跡(02RH51・53)」『京都市内遺跡立会調査概報 平成14年度』京都市文化市民局 2003年
- 31 堀内寛昭「植物園北遺跡(05RH276)」『京都市内遺跡立会調査概報 平成17年度』京都市文化市民局 2006年
- 32 吉崎 伸「植物園北遺跡(06RH234)」『京都市内遺跡立会調査概報 平成18年度』京都市文化市民局 2007年
- 33 吉本健吾「植物園北遺跡(06RH253)」『京都市内遺跡立会調査概報 平成18年度』京都市文化市民局 2007年
- 34 吉本健吾「植物園北遺跡(06RH313)」『京都市内遺跡立会調査概報 平成18年度』京都市文化市民局 2007年
- 35 吉本健吾「植物園北遺跡(06RH322)」『京都市内遺跡立会調査概報 平成18年度』京都市文化市民局 2007年
- 36 平田 泰『植物園北遺跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2007-1 財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2007年
- 37 山本雅和「植物園北遺跡1」『京都市内遺跡発掘調査報告 平成19年度』京都市文化市民局 2008年
- 38 柏田有香「植物園北遺跡2」『京都市内遺跡発掘調査報告 平成19年度』京都市文化市民局 2008年
- 39 津々池惣一「植物園北遺跡」『京都市内遺跡発掘調査報告 平成23年度』京都市文化市民局 2012年
- 40 吉本健吾「植物園北遺跡(10RH291)」『京都市内遺跡詳細分布調査報告 平成22年度』京都市文化市民局 2011年
- 41 吉本健吾「植物園北遺跡(11RH256)」『京都市内遺跡詳細分布調査報告 平成23年度』京都市文化市民局 2012年
- 42 吉崎 伸「植物園北遺跡」『京都市内遺跡発掘調査報告 平成24年度』京都市文化市民局 2013年
- 43 辻 裕司・田中利津子「植物園北遺跡(12RH260)」『京都市内遺跡詳細分布調査報告 平成24年度』京都市文化市民局 2013年
- 44 「植物園北遺跡 現地説明会資料」京都府埋蔵文化財調査研究センター説明会資料12-8 公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター 2013年2月11日
- 45 鈴木久史「植物園北遺跡 No.80」『京都市内遺跡試掘調査報告 平成24年度』京都市文化市民局 2013年
- 46 柏田有香・加納敬二・田中利津子・モンパティ恭代『植物園北遺跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2012-24 財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2013年

3. 遺 構

(1) 基本層序 (図7)

調査地は、調査前まで畑地として使用されていた。現地表面の標高は77.2～77.3mでほぼ平坦である。上から0.3～0.4mまでが現代耕作土とその床土(図7-1～3層)、その下に近世から近代の耕作土層(4・5層)が0.05～0.2m堆積する。それらを除去すると、礫がまばらに混じる均質シルト層あるいは多量の礫を含む砂礫層のこの遺跡を形成する基盤層となる。基盤層上面の標高は76.8～76.9mで西が東に対してわずかに高い。遺構はすべて基盤層上面で検出した。なお、断割調査の結果、この基盤層は砂礫層とシルト層が互層となって堆積しており(15～23層)、河川の氾濫による自然堆積層と考えられる。

(2) 遺構 (図7)

検出した遺構総数は84基である。古墳時代の竪穴建物2棟、古墳時代のピット群、室町時代の土坑などが出土した。以下では主要な遺構について概要を述べる。

竪穴建物31(図8、図版1) 調査区北西部で検出した。西側コーナー部は現代の攪乱により失われる。平面形状はややいびつな方形で、一辺の長さは南辺が約3.6m、東辺が約3.8mある。方位は北に対して約30度西に振れる。検出面から床面までの深さは約0.3mある。埋土はレンズ状に堆積し、上層の1・2層からは古墳時代後期の土師器と須恵器が出土し、下層の3・4層からは古墳時代中期と考えられる土師器の小片が微量出土した。床面直上からは遺物が出土しなかったが、炭化材が散見されたことから焼失建物の可能性も残る。壁溝は幅0.05～0.15m、深さは0.1～0.15mある。床面上で支柱穴と考えられる柱穴41～43を検出した。掘形の直径は0.25～0.3m、深さは0.15～0.2mある。柱痕跡から推測される柱径は約0.1mある。

竪穴建物39(図9、図版2) 調査区北西部で検出した。上記の竪穴建物31と重複し、大きく削平される。平面形はいびつな方形を呈する。残存する東辺の長さは約5.1mある。方位は東辺を基準とすると北に対して約30度東に振れる。検出面から床面までの深さは約0.4mある。床面には厚さ0.05～0.1mの貼床を行っている(9層)。壁溝は幅0.05～0.15m、深さは0.05～0.1mある。床面直上から古墳時代中期のものと考えられる土師器甕が2点(土器A・B)と人頭大の石が数石出土

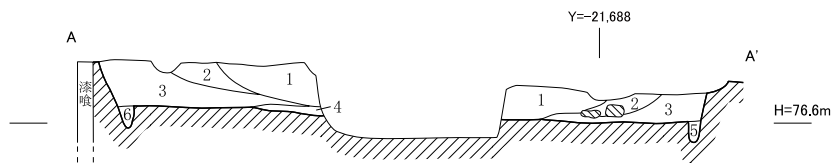
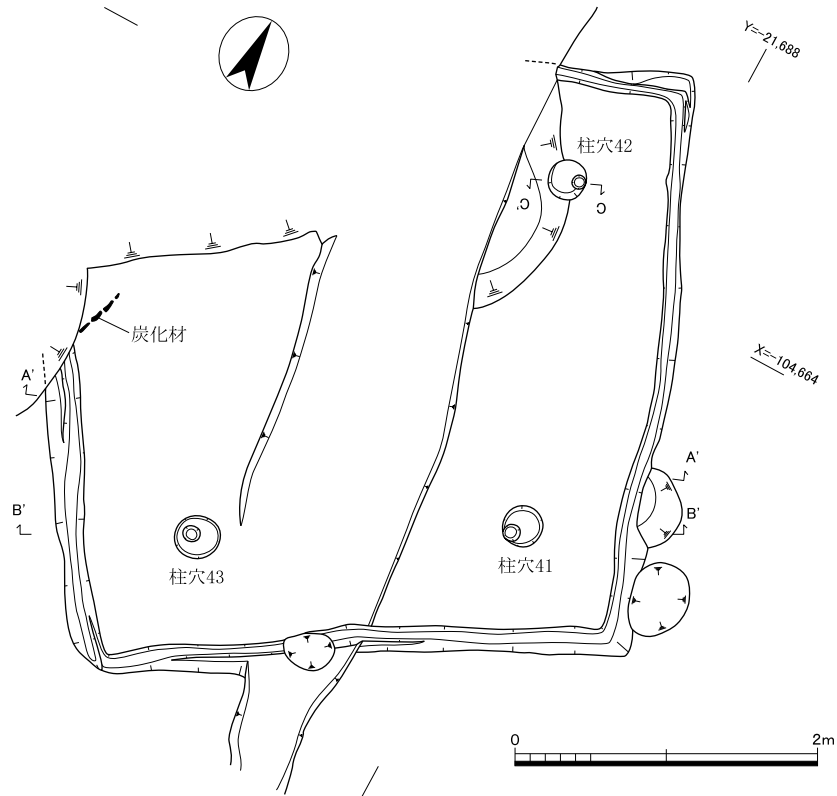
表2 遺構概要表

時 代	遺 構	備 考
古墳時代	竪穴建物31・39、ピット37・38・51・52・58	
室町時代	土坑16・53・30	
江戸時代～近代	土坑8、ピット50	

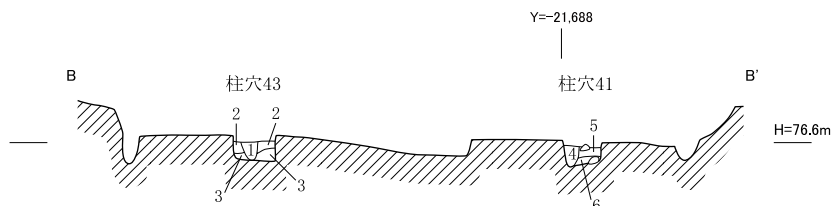


- | | |
|--|---|
| 1 10YR4/1褐色 シルト～細砂 粗砂～小礫混(現代耕作土) | 12 7.5YR3/4暗褐色 細～粗砂 φ5～15cmの礫混 鉄分多い 土壌化(木の根か) |
| 2 2.5Y4/2暗灰黄色 シルト～細砂 粗砂～小礫混 φ1～15cmの礫多量混 固く締まる(耕作床土) | 13 10YR5/2灰黄褐色 細砂～中砂 極粗砂～小礫多量混 固く締まる(溝64) |
| 3 10YR4/6褐色 シルト 極粗砂混 固く締まる(現代盛土) | 14 10YR4/4褐色 シルト～細砂 小礫少量混 締まり悪い(風倒木か) |
| 4 10YR5/1褐色 シルト 粗砂少量混(耕作床土) | 15 10YR3/3暗褐色 粗砂 φ1～15cmの礫詰まる |
| 5 7.5YR3/3暗褐色 シルト～細砂 φ1～5cmの礫混 鉄分多い 固く締まる(耕作床土) | 16 10YR4/2灰黄褐色 細～粗砂 φ3～10cmの礫詰まる |
| 6 10YR4/1褐色 シルト～細砂(現代杭) | 17 10YR4/3こぶい黄褐色 シルト φ1～10cmの礫まばらに混じる |
| 7 2.5Y2/1黒色 細砂 極粗砂～小礫多量混 固く締まる(近現代耕作溝) | 18 10YR5/4こぶい黄褐色 シルト 粗～極粗砂混 φ1～15cmの礫少量混 |
| 8 2.5Y2/1黒色 シルト～細砂 粗～極粗砂、小礫多量混(近現代耕作溝) | 19 10YR4/4褐色 シルト～細砂 やや粘質 粗砂、φ0.5～2cmの礫少量混 (基盤層) |
| 9 2.5Y3/1黒褐色 シルト～細砂 粗～極粗砂多量混 | 20 10YR5/3こぶい黄褐色 中～粗砂 φ1～15cmの礫多量混 |
| 10 2.5Y2/1黒色 シルト～細砂 粗～極粗砂、小礫多量混 | 21 10YR3/3暗褐色 シルト～中砂 φ1～20cmの礫多量混 |
| 11 10YR3/4暗褐色 シルト～細砂 粗砂少量混 炭化物微量混 | 22 10YR4/4褐色 シルト～細砂 粗～極粗砂、小礫多量混 |
| | 23 10YR3/1黒褐色 細～粗砂 φ1～2cmの礫多量混 |

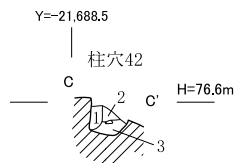
図7 調査区実測図 (1:100)



- | | |
|---|----------------------------|
| 1 2.5Y3/1黒褐色 シルト 粘質 粗砂少量混 | 4 2.5Y2/1黒色 シルト～細砂 粘質 |
| 2 2.5Y2/1黒色 シルト～細砂 粗～極粗砂、φ1～10cmの礫混 | 5 2.5Y3/1黒褐色 シルト 極粗砂～小礫多量混 |
| 3 2.5Y2/1黒色 シルト～細砂 粗～極粗砂、φ1～10cmの礫多量混 固く縮まる | 6 2.5Y3/2黒褐色 細砂 やや粘質 |



- | | |
|---|---------------------------------|
| 1 2.5Y2/1黒色 シルト 粘質 粗砂混 | 4 2.5Y3/1黒褐色 シルト～細砂 粗～極粗砂混 |
| 2 2.5Y2/1黒色 シルト～細砂 | 5 2.5Y4/1黄灰色 細砂 粗～極粗砂、φ3～5cmの礫混 |
| 3 2.5Y3/1黒褐色 シルト～細砂に 2.5Y5/6黄褐色 細砂(基盤層)のブロック混 | 6 2.5Y4/2暗灰黄色 細砂～粗砂 φ5～7cmの礫少量混 |



- | |
|-------------------------------------|
| 1 2.5Y2/1黒色 シルト 粘質 |
| 2 2.5Y3/1黒褐色 シルト～細砂 φ1～2cmの礫少量混 |
| 3 2.5Y3/1黒褐色 シルト～細砂 粗～極粗砂、φ1～5cmの礫混 |

図8 竪穴建物31実測図 (1:50)

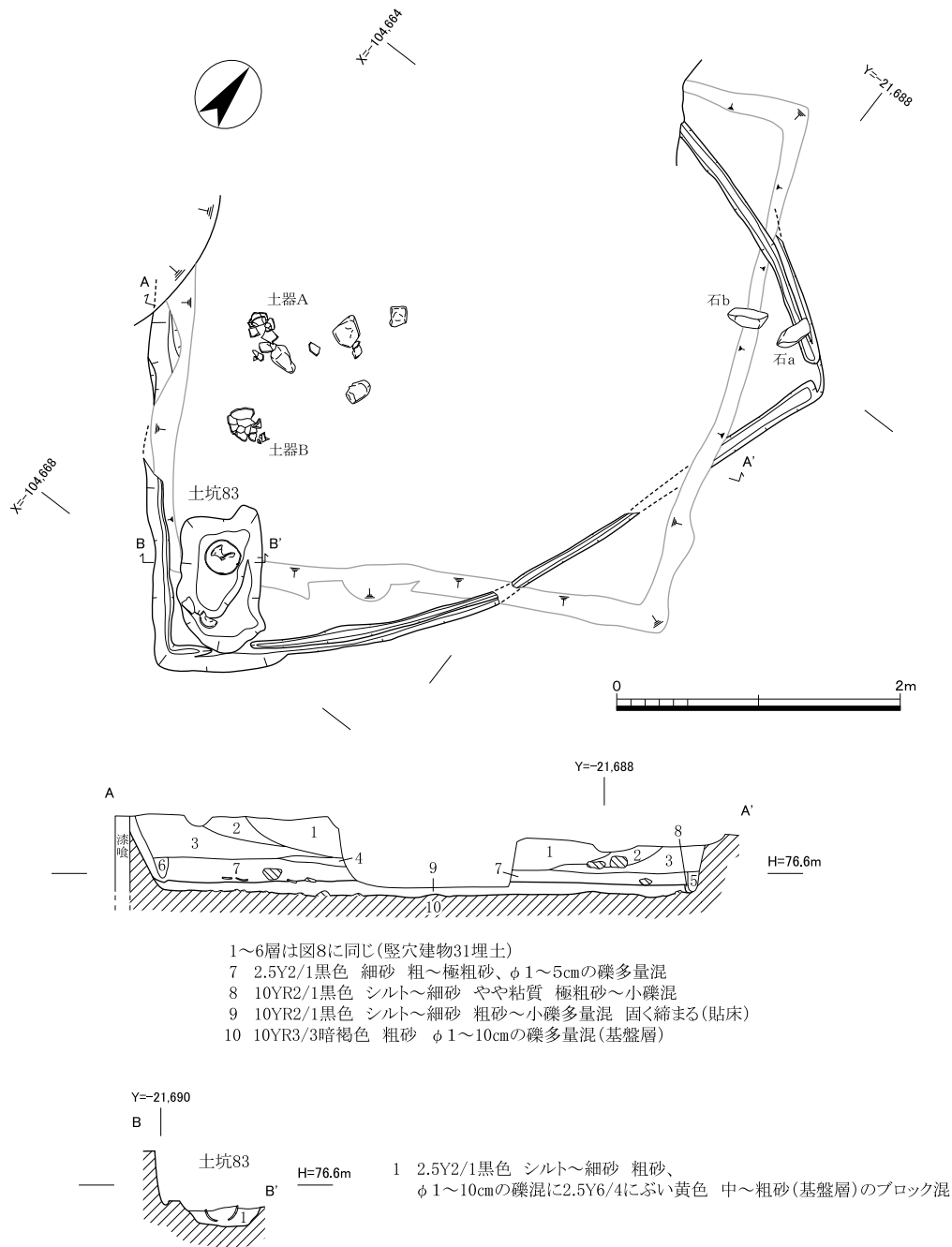


図9 竪穴建物39実測図(1:50)

した。そのうち北東コーナー部付近から出土した石 a・b は使用痕があり、石皿と考えられる。その他の石は加工痕や使用痕は認められなかったが二次的に火を受けて部分的に赤変するものがある。主柱穴は検出できなかったが、建物の南コーナー部で貯蔵穴と考えられる土坑83を検出した。土坑83は平面隅丸長方形で、長辺が1.0m、短辺約0.6mある。断面形は逆台形状を呈し、底は平坦である。埋土から土師器の甕と高杯が出土した。

小ピット群(図7) 調査区全域で平面円形の小規模なピットを検出した。調査区西半に多く分布する。直径は0.2~0.45m、深さは0.1~0.6mある。建物としてのまとまりを捉えることはできなかったが、ピット50・74では柱痕跡を確認しており、掘立柱建物あるいは柵などを構成する柱穴

である可能性が高い。ピット37・38・51・52・58からは古墳時代中期から後期のものと考えられる土師器片が出土した。一方ピット50からは江戸時代の施釉陶器が出土しており、各時代のものが混在していると考えられる。

土坑16・53・30（図7） 調査区中央付近で土坑16・53を、調査区北西部で土坑30を検出した。土坑16は平面楕円形で長径約1.0m、短径約0.8m、深さは約0.35mある。埋土は10YR3/2黒褐色のシルト～細砂に径5～15cmの礫が少量混じる。埋土から室町時代のものと考えられる焼締陶器の播鉢（信楽産）や甕（常滑産か）などが少量出土した。土坑53は土坑16に東隣で検出した。平面楕円形で長径約0.7m、短径約0.5m、深さは約0.2mある。埋土は10YR3/2黒褐色のシルト～細砂で、埋土から室町時代のものと考えられる土師器片が出土した。調査区北西部で検出した土坑30は竪穴建物31を削平する。西半を削平されるが、平面形は円形と考えられ、残存径は南北約2.0mある。断面形は播鉢状を呈し、深さは約0.4mある。埋土は上層が2.5Y2/1黒色の細砂に径3～30cmの礫が混じる。下層はやや粘質の2.5Y3/1黒褐色のシルト～細砂である。埋土から室町時代のものと考えられる瓦質土器の羽釜や土師器の小片が出土した。

土坑8（図7） 調査区西端で検出した。西側は調査区外に延び、東側は現代の攪乱を受け、全体形は不明である。検出長は南北約0.9m、東西約0.6mで深さは約0.25mある。埋土は10YR4/4褐色の細砂で固く締まる。埋土から近世の土師器皿、磁器の小片、染付椀などが出土した。

溝64（図7） 調査区西半で検出した南北方向に走る溝である。南端で西に派生する。検出長は南北約9.5m、幅約0.8～1.3mある。断面形は逆台形状で深さは0.05～0.35mある。北から南に低くなるが、底は起伏がある。埋土は灰黄褐色の細砂～中砂で（図7-13層）で非常に固く締まる。埋土からは遺物が全く出土しなかったが、古墳時代の遺物が出土したピット38に切り込まれるため、それ以前のものである可能性がある。

4. 遺物

今回の調査では整理コンテナにして7箱の遺物が出土した。出土遺物には土器・陶磁器類、瓦類、石器がある。遺物の帰属時期は、古墳時代、平安時代、室町時代、江戸時代のものがある。そのうち古墳時代の遺物が約7割を占める。平安時代、室町時代の遺物は微量である。全体的に見て小破片が多く、遺物の残存状況は良好ではない。以下に図化できたものについて概要を述べる。

（1）土器類（図10、図版3、表4）

1・2は竪穴建物39の床面直上から出土した土師器甕である。1が土器B、2が土器A（図9）である。1は球形の体部から口縁部が短く外反して立ち上がる。口縁部は内外面ともヨコナデで仕上げ、口縁端部は外傾する面をもつ。体部外面はハケメ、内面は口縁部直下はユビオサエし、屈曲点から約3cm以下は横方向のヘラケズリを行うが、全体的に粗製なつくりで、器壁は厚く、口縁部と体部の接合部には粘土接合痕跡が段となって明瞭に残る。体部外面中位には煤が厚く付着する。

2は全体形を復元できなかつたため、破片のみ掲載した。口縁部は出土しなかつた。体部外面はタテハケ、内面は横方向にヘラケズリする。器壁は薄く、胎土は精良である。一部の破片には外面に煤が付着する。3・4は竈穴建物39の貯蔵穴と考えられる土坑83から出土した土師器である。3は甕の体部である。外面はヨコハケで、上半はハケメをナデ消す。一部に煤が付着する。内面は上半はユビオサエ、屈曲点から約5cm以下は横方向のヘラケズリを行う。4は有稜高杯である。脚部から一次口縁までは一体に作り、二次口縁を付加している。一次口縁の擬口縁を低い突帯状に残し、その上端部をやや強くナデ、稜を付けている。二次口縁部は横方向の回転ナデ調整を行い、端部は外反する。杯部と脚部の屈曲部は細かくユビオサエする。脚部はハの字上に開き、端部は丸くおさめる。外面はナデ、脚柱部内面はヘラケズリ、脚裾部はヨコハケで仕上げる。これら1～4の土師器は、甕の球形の体部と内面のヘラケズリ、高杯杯部の稜を意識したつくりなどに布留式土器の特徴を残すが、1の甕口縁部は布留式甕の特徴である内弯肥厚口縁ではなく、器壁も厚くなっている。また1、3の甕のヘラケズリ開始位置が口縁直下よりかなり下がっており、4の高杯に回転台を使用したと思われる痕跡があることなどから、須恵器は共伴していないが、5世紀前半代の古墳時代中期に帰属するものと考えたい。

5は竈穴建物31の埋土最上層から出土した須恵器甕である。口縁端部はわずかに肥厚する。体部外面は格子状タタキ、内面は同心円の当て具痕が残る。焼成は不良で軟質である。古墳時代後期のものと考えられる。同一層からは他に須恵器杯Hや土師器の甕などが出土したが、いずれも小片である。

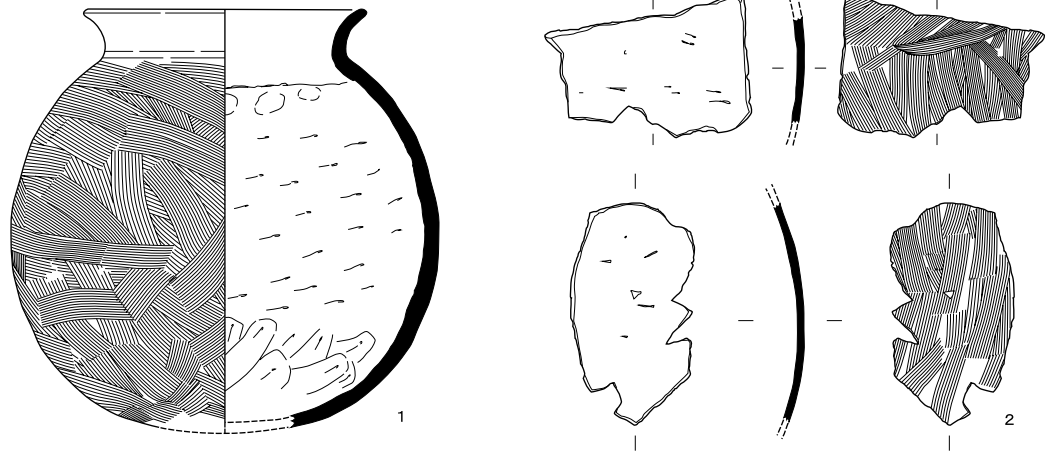
6・7は近世耕作土に混入して出土した平安時代の須恵器である。6は須恵器椀で、高台は削り出しの平高台、底部は回転糸切り痕が明瞭に残る。体部内面はナデで仕上げる。胎土には砂粒を多量に含む。産地は不明。7は京都産の緑釉陶器系の須恵器椀の破片である。内外面ともに陰刻文を施す。胎土は精良である。8は近世耕作土に混入して出土した中世の山茶椀である。高台は貼り付けの輪高台である。

表3 遺物概要表

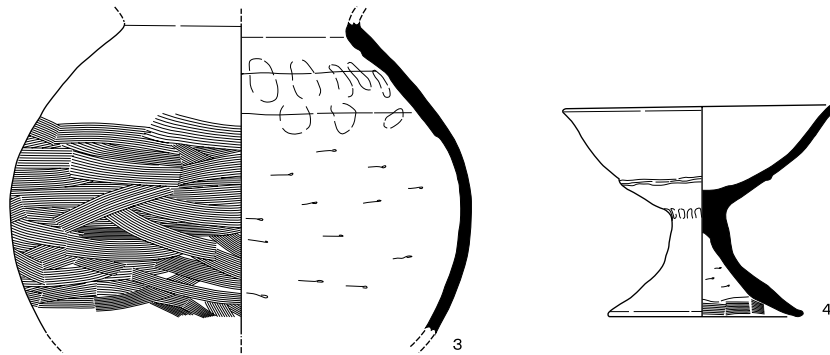
時代	内容	コンテナ箱数	Aランク点数	Bランク箱数	Cランク箱数
古墳時代	土師器、須恵器、石器		土師器4点、須恵器1点、石器2点		3箱
平安時代	土師器、須恵器、瓦		須恵器2点、平瓦1点		2箱
鎌倉時代 ～室町時代	土師器、山茶椀、瓦質土器、焼締陶器、輸入陶磁器		山茶椀1点		
江戸時代	土師器、焼締陶器、施釉陶器、染付、磁器、瓦				
合計		8箱	11点(3箱)	0箱	5箱

※ コンテナ箱数の合計は、整理後、遺物を抽出したため、出土時より1箱多くなっている。

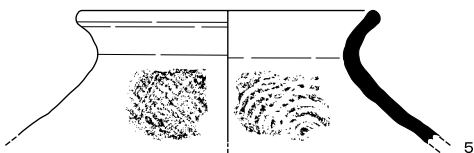
竪穴建物39床面



土坑83(竪穴建物39貯蔵穴)



竪穴建物31埋土最上層



近世耕作土

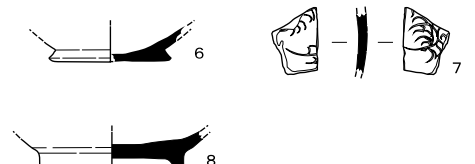


図10 出土土器実測図(1:4)

表4 掲載土器観察表

No.	器種	器形	出土遺構	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	残存率 (%)	色調	胎土	備考
1	土師器	甕	竪穴建物39 床面	(14.6)	(22.1)		40	10YR6/3にぶい黄褐色 ~7.5YR5/2灰褐色	やや粗。1~5mmの石英・長 石多量、チャート少量含。	土器B
2	土師器	甕	竪穴建物39 床面				体部30	10YR7/3にぶい黄橙色	密。1~2mmの石英・長石・ チャート含。	土器A
3	土師器	甕	土坑83				体部50	7.5YR8/3浅黄橙色	やや粗。1~4mmの石英・長 石・チャート多量含。	竪穴39貯蔵穴
4	土師器	高杯	土坑83	14.2	11.2	10.4	80	7.5YR8/2灰白色	密。0.5~2mmの石英・長石 ・チャート少量含。	竪穴39貯蔵穴
5	須恵器	甕	竪穴建物31 埋土最上層	(15.5)	(7.1)		20	2.5Y7/1灰白色	やや粗。1~4mmの白色粒 多量、黒色粒少量含。	
6	須恵器	椀	近世耕作土		(1.9)	(6.2)	20	N7/0灰白色	やや粗。0.5~3mmの白色 粒多量、黒色粒少量含。	
7	須恵器	椀	近世耕作土				5	2.5Y7/1灰白色	密。	
8	山茶椀	椀	近世耕作土		(2.0)	(7.0)	20	N8/0灰白色	密。	

(2) 瓦類 (図11)

瓦類は近世耕作土や攪乱などから少量出土した。近世の棧瓦・平瓦・塀瓦などとともに平安時代の平瓦が1点出土した。瓦1は凹面布目、凸面縄タタキの平瓦で端面はヘラ切りする。焼成は硬質、胎土は緻密で径1～3mmの石英・長石・チャートを少量含む。色調は外面が7.5YR7/1明褐灰色、胎土はN8/0灰白色を呈する。

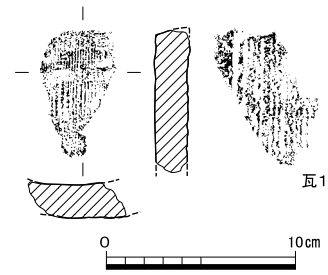


図11 出土瓦拓影・実測図 (1 : 4)

(3) 石器 (図12、図版3)

竪穴建物39の床面直上から人頭大の石が6石出土した。そのうち東隅部で出土した石aと石b (図9) には平滑面があり、石皿として使用されたものと考えられる。石1が石b、石2が石aである。石1は最大長31.0cm、最大幅13.0cm、最大厚は10.3cmある。長辺の3面に平滑な擦り面が認められる。表面の一部は二次的に火を受けて赤変する。石材は玢岩と考えられる。石2は最大長27.3cm、最大幅14.5cm、最大厚は7.8cmある。長辺の1面のみに平滑な擦り面が認められる。擦り面は二次的に火を受けて一部が赤変する。石材は玢岩と考えられる。

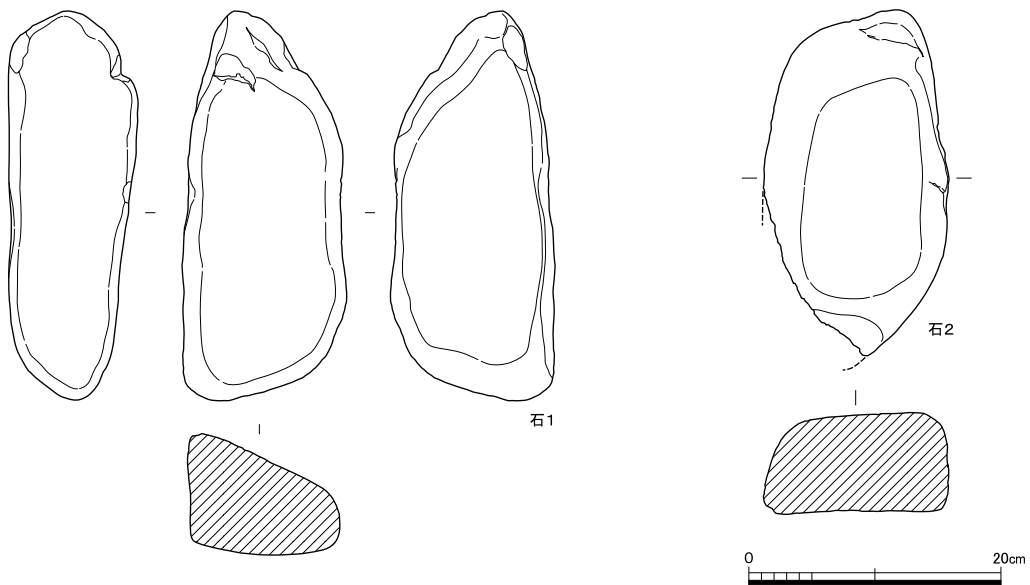


図12 出土石器実測図 (1 : 6)

5. ま と め

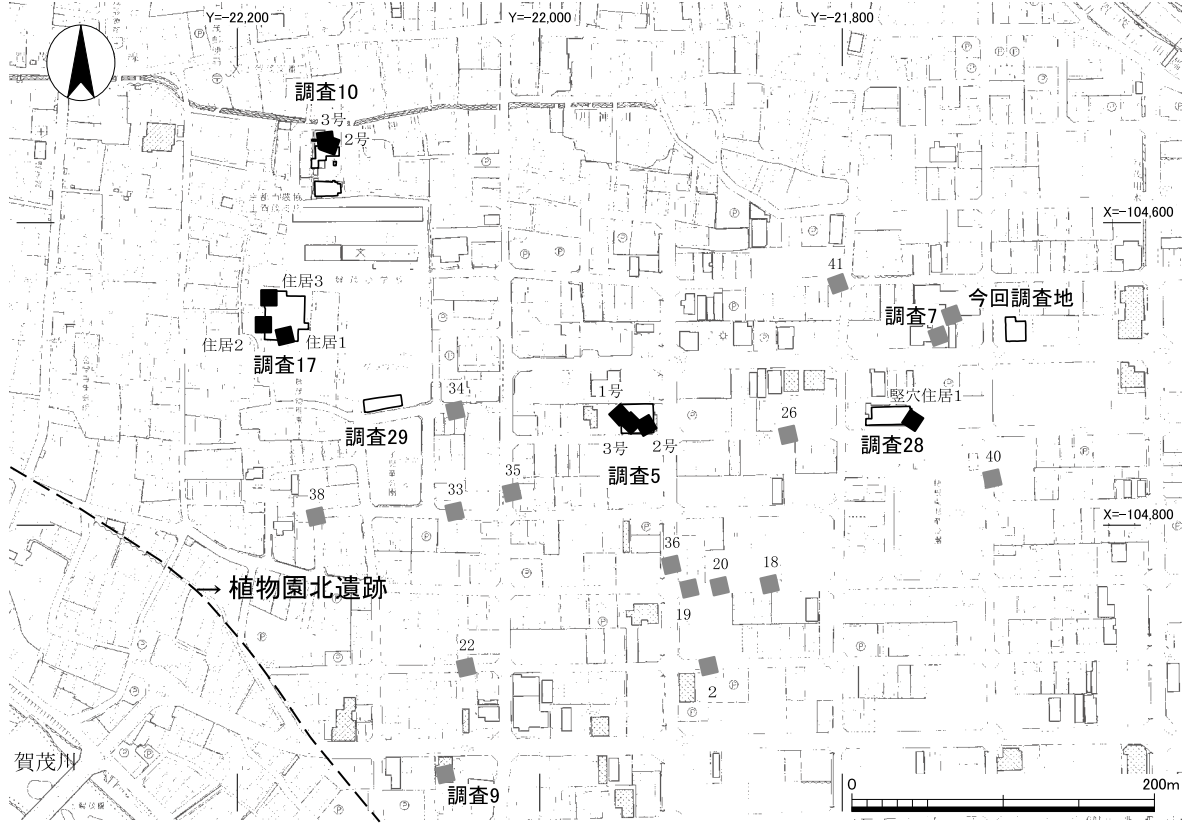
今回の調査では、重複する竪穴建物31・39、掘立柱建物の柱穴の可能性のある小ピット群などを検出した。これらの時期については、竪穴建物39は床面直上と貯蔵穴とみる土坑83から出土した土器から古墳時代中期のものと考えられる。それを削平して成立する竪穴建物31についても、埋土最上層からは古墳時代後期の須恵器が出土しているものの、それ以下の埋土からは須恵器が出土しないことや、京都市内で見つかる古墳時代後期の竪穴建物に通有の作りつけ竈が確認できないことなどから、やはり古墳時代中期のものである可能性が高いと考える。埋土がレンズ状に堆積することから、廃絶後に放置され、最終的に古墳時代後期に埋まったものと思われる。古墳時代中期の中ではほぼ同じ場所で、方位の振れをやや変えて2棟の建物が建てられたことになるが、この要因については調査区全体で基盤層が砂礫質の場所が多いことから、掘削のしやすい均質なシルト質の場所を選んだ結果であろうと考えられる。小ピット群については、古墳時代中期から後期の遺物が出土するものと江戸時代の遺物が出土するものがあるが古墳時代前期以前の遺物は出土しておらず、今調査地での土地利用の開始は古墳時代中期頃と考えられる。また、それ以降についても、平安時代の遺物や室町時代の土坑が少量出土しているものの、活発に利用された形跡はなく、耕作地となって現在に至ると考えられる。

最後に、今回の調査地を含めた植物園北遺跡北西部の建物の時期別分布を見ておきたい。時期は大きくは古墳時代前期・中期・後期の3時期に分けられる。植物園北遺跡南東部では飛鳥時代から奈良時代の建物も見つかっているが、北西部では検出例がない。また、古墳時代前期については庄内式併行期のものと布留式期のものに分けられると考えられるが、立会調査で確認されたものが多く、詳細な時期決定については今後の課題としたい。

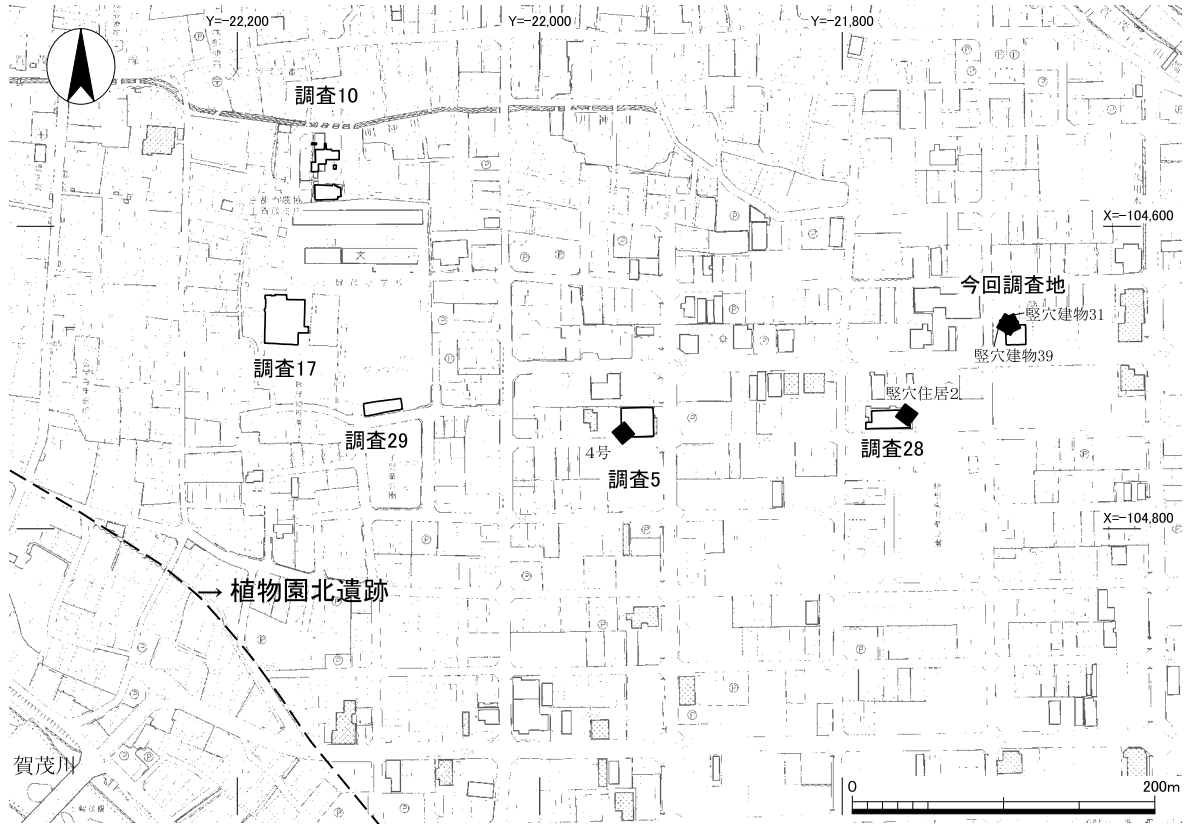
図13・14に図示した遺跡北西部の範囲では古墳時代前期の竪穴建物が最も検出例が多く、全域に分布している。この時期の竪穴建物は遺跡南東部のノートルダム女学院付近（図6－調査13・46）の調査でも多数見つかっているが、遺跡中央部での検出例は少なく、南東部の中心域から1 km以上の距離があることから、集落の中心が遺跡内に2箇所に分かれて存在した可能性がある。古墳時代中期の竪穴建物は今回の調査で検出した2棟を含めても4棟のみである。遺跡全体を見ても、これ以外に検出例はなく、今回調査地付近に限定される。また、京都市内全域を見ても古墳時代中期の竪穴建物の出土数は極めて少なく、集落の実態もよくわかっていない。そうした中で本調査での2棟の竪穴建物の発見は、当該期の建物構造などを知る好資料となろう。古墳時代後期の建物分布は北西部でもさらに西半に集中する。特に調査10では8棟の竪穴建物が見つかっている。また、この時期には調査29で総柱の掘立柱建物が2棟見つかり、この遺跡での掘立柱建物の出現時期となると考えられる。

以上のように、遺跡北西部だけを見ても時期による遺構分布に偏りがあることが判明した。植物園北遺跡では近年、発掘調査が相次いで行われ調査成果が蓄積されており、今後は遺跡全体で時期別の遺構分布を明確にし、集落の変遷や特徴を捉えていくことが課題となる。

古墳時代前期



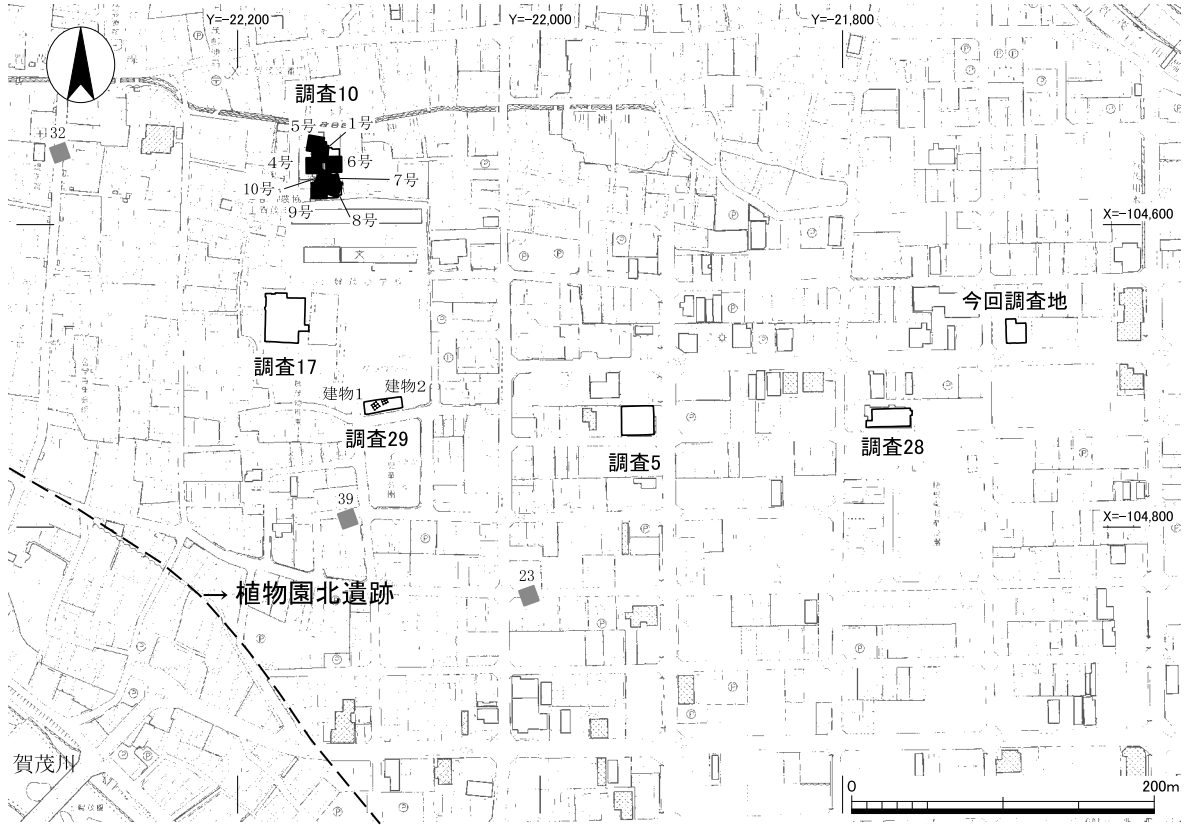
古墳時代中期



- ※ 調査地点の番号は図6の番号と対応する
- ※ 地点番号のないものはすべて調査2で検出されたもの
- ※ ■ は建物方位の振れが不明なもの

図13 遺構変遷図1 (1:5,000)

古墳時代後期



- ※ 調査地点の番号は図6の番号と対応する
- ※ 地点番号のないものはすべて調査2で検出されたもの
- ※ ■ は建物方位の振れが不明なもの

図14 遺構変遷図2 (1 : 5,000)

圖 版



1 調査区全景（北西から）



2 竪穴建物31（北東から）



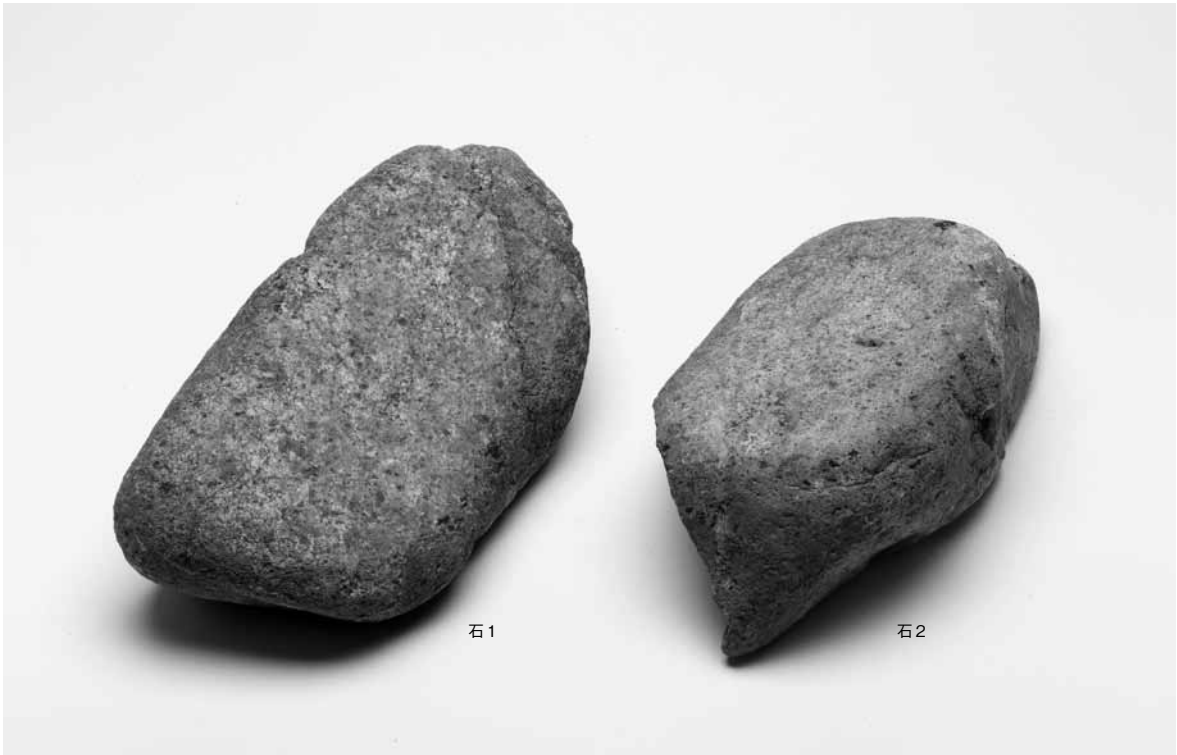
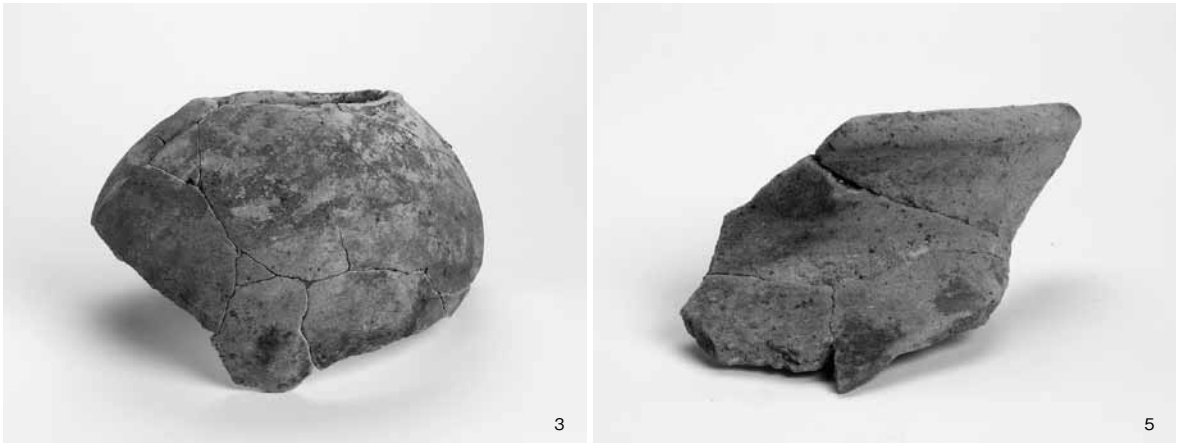
1 竪穴建物39（北東から）



2 竪穴建物39床面土器出土状況（北から）



3 土坑83（北西から）



出土遺物

報 告 書 抄 録

ふりがな	しょくぶつえんきたいせき							
書名	植物園北遺跡							
シリーズ名	京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告							
シリーズ番号	2013-4							
編著者名	柏田有香							
編集機関	財団法人 京都市埋蔵文化財研究所							
所在地	京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265番地の1							
発行所	財団法人 京都市埋蔵文化財研究所							
発行年月日	西暦2013年9月30日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
しょくぶつえんきたいせき 植物園北遺跡	きょうとしきたく 京都市北区 かみがもむかいなわてちょう 上賀茂向繩手町 66	26100	146	35度 03分 23秒	135度 45分 44秒	2013年6月 10日～2013 年7月5日	188.5㎡	建物新築 工事
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
植物園北遺跡	集落跡	古墳時代	竪穴建物、ピット	土師器、須恵器、石器		古墳時代の竪穴建物2棟が重複して見つかった。		
		平安時代		土師器、須恵器、瓦				
		室町時代	土坑	土師器、山茶椀、瓦質土器、焼締陶器、輸入陶磁器				
		江戸時代～近代	土坑、ピット	土師器、焼締陶器、施釉陶器、染付、磁器、瓦				

京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2013-4

植物園北遺跡

発行日 2013年9月30日

編集発行 財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

住所 京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265番地の1
〒602-8435 TEL 075-415-0521
<http://www.kyoto-arc.or.jp/>

印刷 三星商事印刷株式会社

住所 京都市中京区新町通竹屋町下る弁財天町298番地
〒604-0093 TEL 075-256-0961